

食用ホオズキ「ゴールデンベリー」の高品質安定生産のための栽植密度

[要約]

食用ホオズキ「ゴールデンベリー」の露地栽培において、栽植密度を農家慣行の株間 100 cm から株間 60 cmに見直すことにより、可販収量は 6 割以上増加する。

農業総合センター山間地帯特産指導所	平成 30 年度	成果 区分	技術情報
-------------------	----------	----------	------

1. 背景・ねらい

食用ホオズキは、全国的にも少量しか栽培されていないため試験事例が少ない品目である。このため、県北中山間地域の特産作物として定着するには、品質を維持しつつ、さらに収量を向上させ、収益性を高める必要がある。収量には、生産技術の一つである栽植密度が最も影響することから、本試験では農家慣行の栽植密度の見直しを検討する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 食用ホオズキ「ゴールデンベリー」を株間 60 cm×畝間 200 cm（以下株間 60 cm）で栽植した場合、可販収量は 44.6kg/a となり、現地の慣行である株間 100 cmの可販収量 26.6kg/a より増加する（表 1、図 1）。
- 2) 株間 60 cmの平均 1 個重と糖度は他の試験区と同程度で、果実の重さ及び果実品質への影響はみられない（表 1）。
- 3) 株間 60 cmは、他の試験区より規格外品率がやや高いが、総収量が多いため、可販収量が多い（表 1、表 2）。
- 4) 株間 60 cmで規格外品が生じる要因は、他の試験区と同様の傾向である（表 3）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は、久慈郡大子町の山間地帯特産指導所ほ場において調査した結果である。
- 2) 食用ホオズキの選別基準は、花貫フルーツほおずき倶楽部の出荷規格に従った。
- 3) 栽植密度の変更が、作業時間等に及ぼす影響の評価は行っていない。
- 4) 産地において栽植密度を変更する場合は、管理作業等を十分に検討した上で決定する必要がある。

4. 具体的データ

表1 栽植密度の違いが収量及び果実品質に及ぼす影響 (H28-30)

試験区	総収量 (kg/a)	可販収量 (kg/a)	全個数 (個/株)	平均1個重 (g)	糖度 (Brix%)
株間 60cm	53.3	44.6	64.9	9.9	12.7
株間 80cm	41.7	35.0	66.0	10.1	12.5
株間 100cm	31.6	26.6	63.3	10.0	12.5

表2 栽植密度の違いが出荷規格別個数割合に及ぼす影響 (H28-30)

試験区	A品率 (%)	B品率 (%)	C品率 (%)	規格外品率 (%)
株間 60cm	56.8	3.9	17.9	21.4
株間 80cm	55.7	5.1	20.3	18.9
株間 100cm	55.8	5.0	21.3	17.8

1) 播種日 H28 : 3/30 H29 : 4/3 H30 : 4/3 定植日 H28 : 5/23 H29 : 5/23 H30 : 5/23

畝間 : 200 cm 窒素施肥量 : 12kgN/10a 整枝 : 4本主枝×側枝2果どり

2) 収穫期間 : H28 : 8/19~12/14 H29 : 8/18~11/20 H30 : 8/9~12/10

3) A品 : ほおを含めた果実の重さが9g以上で「ほお」に汚れがなく、果実にかび、虫害、キズ、裂果、果形の乱れがないもの

B品 : ほおを含めた果実の重さが9g以上で「ほお」には汚れが見られるが、果実にかび、虫害、キズ、裂果、果形の乱れがないもの

C品 : ほおを含めた果実の重さが9g未満で果実にかび、虫害、キズ、裂果、果形の乱れがないもの

規格外品 : A品、B品、C品の規格に合致しないもの

4) 可販収量は総収量にA品率、B品率、C品率の和(重量ベース)を乗じて算出

表3 栽植密度の違いが規格外品の発生要因に及ぼす影響 (H29-30)

試験区	かび (%)	虫害 (%)	キズ (%)	裂果 (%)	果形の乱れ (%)
株間 60cm	6.7	14.5	0.5	33.0	45.3
株間 80cm	5.1	18.9	1.1	34.4	40.5
株間 100cm	8.7	21.4	0.0	29.9	40.0



図1 株間 60 cm (左)及び株間 100 cm (右)の栽培状況

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

食用ホオズキの安定生産技術の開発 平成 28~30 年度 山間地帯特産指導所